

第2回 魅力あふれる公園づくり構想策定委員会 議事録

1 日 時

令和3年11月19日（金）午後3時00分～午後4時00分

2 場 所

社会教育センター401 研修室

3 出席した委員 14名

委員長：瀬口哲夫

委 員：岡田行永、杉浦世志朗、武田正雄、永田憲正、大野裕史、近藤莊太、名倉充男

岸本浩子、高井智幸、稲吉豊治(代理：志賀雅樹)、前野宏光、石原 章、宮田孝裕

4 欠席した委員 0名

委員：なし

5 事務局

清水公園整備推進監兼課長、小川課長補佐、林工務係長、堀場主任主査、新美主事
加藤スポーツ振興監兼課長、内田課長補佐、増田業務係長、松原主事

6 傍聴者

6名

7 公開・非公開の別

公開

8 議題

- (1) 前回のふりかえり
- (2) ワークショップの実施概要について
- (3) ワークショップの構成委員について
- (4) 公園利用者アンケートについて
- (5) スケジュール

質疑

《議題（１）について》

説明（資料１：魅力あふれる公園づくり構想策定委員会名簿）

（資料２：前回のふりかえり）

【委員】

前回の振り返りの中で、亀城公園の将来像は「亀城公園の歴史公園化」ということで、歴史博物館もそのエリア内に入っているわけですね。それでその歴史博物館をもう少し内容を、これは公園とはちょっと別次元かもしれないのですけれども、上手に博物館ももっと盛り上げて、人が来ていただいてという形で、実際、現地を体験していただくというようなスタイル。歴史博物館をちょっと眺めてみますと、あまり利用者がいないですよ。ここへもっと来ていただくような内容のものをもっと盛り込んでもらって、コラボしながら亀城公園の跡地のほうも一緒にやっていけばと思いますので、歴史博物館の重み付けもちょっと加えていただければいいかと思います。

【事務局】

ご意見ありがとうございました。今いただいたご意見は今後のワークショップの中で、活用していきたいと思います。

【委員長】

歴史博物館が出来る前に、非常に期待は持っておりましたが、今のご意見だと、少し期待に沿っていないのではないかということなので、もう少し亀城公園と連携するとか、歴史博物館そのものの魅力を高めていくことも今後の課題となっていくと思います。

《議題（２、３）について》

説明（資料３：ワークショップの実施概要）

説明（資料４：ワークショップの構成委員）

【委員】

各中学校の生徒さんが入っているのですが、今の中学の生徒さんは個人でも、学校で選ばれたか分からないですけど、非常にいい考えを持っていますし、積極的な発言をしてくれると思っています。ただ、個人の考えもすごくいいと思うのですが、この子たちは、学校で意見を集約してから参加するのか、もしくは学校全体かクラスか、それとも自分の思いで進めてくのか、そういう立場というのはどのような感じで参加しているのかを教えてください。

【事務局】

中学生の方には、学校の意見を集約するというよりは、公園の利活用について、個人で思われたことを言って頂くことで、中学生の本当の生の意見を頂ければいいと考えております。

【委員長】

これは学校に依頼するのですか。それとも希望者が手を挙げて来てくれるのか。

【事務局】

学校には校長会を通じて依頼をかけさせて頂いておりまして、学校で選定していただくという形でございます。

【委員】

今日の説明の中の資料3のところ、第3回のプログラムの中で、“これからの公園でできたら良いと思う「もの・こと」”とありますが、こういったときに参加者の方がどんなことを言っているのか、夢みたいな話もしているのかということ。実現できそうもないこととか、どこまでぐらい言っているのかというのを教えて頂ければと思います。

【事務局】

公園の整備というのは、これまでは公共による整備が基本であったのですが、平成29年の都市公園法の改正によりまして、Park-PFIといわれる、民間と連携した整備の環境が整ってきています。そういった背景もございますので、本当の夢のような話はちょっとまずいと思うのですが、事務局としては自由に提案していただいているのではと考えております。

【委員】

今、愛知県も民間の力を使って公園の魅力を高めようということで、いろんな取り組みをここ数年しており、今日お集まりの皆さんの中にも、行ってもらったこともあるかもしれませんが、大高緑地に、動く恐竜がある「ディノアドベンチャー名古屋」があります。また、新城総合運動公園では、あそこは山間地にあるので、これが「フォレストアドベンチャー・新城」で、大人のフィールドアスレチックみたいな、木の上をロープで伝って渡るとか、そんなものもあります。

最近では県営の小幡緑地でレストラン、キャンプ場も造っておりまして、夜、泊まって頂いています。事務局からPark-PFIという言葉が言われたので、少し宣伝になりますけども、愛知県としても今まで全然、想像してなかったことを最近やり始めておりますので、ぜひワークショップの中でも、そういうことへの発言があつて盛り上がると思います。

【事務局】

大変、勉強になりました。またそういった民間との連携した整備も勉強させて頂ければと思います。ありがとうございました。

【委員】

ワークショップの構成員についてお聞きしたいのですが、いろんな所でボランティアガイドの人が見えると思うのですが、一番地域のことをよく説明している、あるいは公園の中で説明している人は、この社会福祉団体とはまた違いますよね。社会福祉団体の方がどのグループにもみんな、1名ずつ入って見えるのですが、他の個人の方、地区の役員の方とか地区を良くしている人、住んでいる人で興味のある人などがあるのですが、ボランティアガイドっていうのはどんなものですかね。

【事務局】

資料の4の2 ワークショップの構成員のページをご覧ください。先ほど社会福祉団体とかというお話もありましたけど、せっかくですので、ファミリー世代はどういった方を想定しているのか、社会福祉団体はどういう方を想定しているのかということから、少しご紹介のほうをさせていただきたいと思います。

ファミリー世代等の選定につきましては、ボランティアセンターに相談して、直接お話しさせて頂いております。例えば公園でプレーパークなどをやっている団体であったり、防災をやっている団体の方、あとは社会福祉団体で、社会福祉事業所の方であったり、そういった所をボランティアセンターに紹介頂きながら声掛けをさせて頂いております。

ボランティアというお話がありましたけど、今回、選定させてもらっている中で、例えばフローラルガーデンよさみでいきますと、実際に活動されている団体の方も選定させて頂いております。

【委員】

ぜひ地域の身近な人の意見を聞くのもいいなと思ってお願いしたいと思います。

【委員長】

フローラルガーデンよさみは、地域の身近な方が3名入っていますよということですね。今のところは別の形で入っているのですね。

【事務局】

例えば洲原公園ですと愛教大の方が入っています。実はアンケート調査に行ったときに使われていたりもししていました。そういう身近な方とかも入れております。

【委員】

県の方では、なかなかワークショップをやる機会が少ないことから、事務局にお聞きしたいのですが、2点ワークショップの進め方という形で教えて頂ければと思います。

1点目は、ワークショップをやると、メンバーの方とかいろいろ思いがあるので、あれをしてほしい、こうしてほしいみたいな要望会みたいになってしまう可能性があるのではないかというような心配があるので、それはどのようにうまくワークショップを進めていくのか。2点目は、いろんな方が集まってみんなフラットのような状態になるので、リーダーを置くようなことをされるのか、しないのか。この2点、教えて頂ければと思います。

【事務局】

まず1点目の、要望会にならないかということですが、グループワークが要望会にならないように、また円滑に進めるようにするために、この業務をコンサルタントにも委託しながら実施していきます。作業の際には各グループに、そのコンサルタントの者を配置して、このグループワークの作業内容を各テーブルで丁寧に説明しながら、実施していきたいと考えております。

2点目の、各グループにリーダーを配置するのかというお話ですが、グループワークとかをやっていくときにリーダーを置く効果としては、リーダーの方が引っ張っていき進行が円滑に進むことが良いところと思うのですが、その一方で、参加者間の中にリーダーと参加者がいる形にもなり、

参加者のなかで立場が異なってきます。

今回は、ワークショップに参加された方が発言しやすい雰囲気、皆さん同じ立場で意見を言う環境を整えることが、いい構想づくりにつながってくると思いますので、コンサルタントにそのリーダー役みたいなのところも含めてお願いして、参加者の方は同じ立場で意見をお伺いするのがいいと考えております。

【委員長】

事業ということになると非常に限定されますけど、将来の在り方みたいなことを中心にして皆さんからご意見をいただく、それでこの公園の在り方がある程度、具体化していくということになると思います。

私も名古屋城の関係をしてしていますが、名古屋城の最近の動きでは本丸全体をどのように整備するかという計画が作ってあります。だから、一つの建物をどうするのではなくて、全体をどうするか、それはいつできるか分からないですが、全体をどうするかというのを決めておいて、それで一つずつ、予算状況に応じて作り上げていく。

だから全体でイメージがなくて今まで随分やってきたところが、予算主義でありますので、それを今いろんなところ見直されて、県も同じだと思いますけど、いろんな形で見直すので、この場合、今回のこの魅力あふれる公園づくりも同じように、まず全体、将来こんなものが市民の皆さんは欲しいなというのがあって、それはもう来年つくるとか5年後つくるということには、まず、なかなか難しいものも含まれますので。ただ、皆さんがいいということになれば、それをある程度、全体計画として取りまとめることができればいいかなと。

途中でまとめられなかったら、それはまだ皆さんの合意がないということになりますからね。だから、できたらその案をできるだけまとめたいという方向でいきたいということですよ。ありがとうございました。

策定委員会の委員さんのご意見も、十分、反映される形になるのですよね。だから、ある程度、ワークショップが進行したところで、内容については、ご意見を伺うということになりますよね。

《議題（４）について》

説明（資料５：アンケート調査の実施概要）

（資料６：アンケート調査中間報告）

【委員】

感想で言うと、洲原公園がすごく、想像以上に利用者が多いなと思ったのですが、なにか特別なことはないか。大体、常時こんなものか。

【事務局】

散策されている方であったり、遊具とか園路を再整備した区域があるのですが、そういった所に多くの方がいらっしゃったりします。あとは大学生が結構、歩いており、授業で使われているような様子も見られました。あとスポーツ施設としての利用もあり、土曜日はバーベキューの利用など、いろんな方がいらっしゃって、意外と、多いなという印象があります。面積が広い分、そんなに人がいない印象も、もしかしたら持たれている方もいるかと思うのですが、結構、利用者が多いとい

うのが率直な感想です。

【委員】

この5公園の中でバーベキューができる公園はどこか。

【事務局】

バーベキューのできる公園としては、洲原公園が施設を持っております。総合運動公園は公園内ではできませんが、横の河川敷でやって見える方もお見えになります。

【事務局】

今回のアンケート調査では、公園緑地課職員が現地へ行って、公園利用者の方の生の声を聞いてまいりました。実際に、使われている方に近づいて声を掛けて、調査を行っております。全体的な話をする、各公園、非常に気に入って頂いているなという感触は持っています。特に岩ヶ池公園は非常に利用者数も多い、どうしても市外の方の利用も非常に多いものですから、丁寧に数を拾いながら、職員も頑張ったなと感じております。非常にいい活動ができたと考えております。

【委員長】

公園の利用者は何人か分かるものですか。統計か、あるいは何らかの形で。大体、年間でこれぐらい使用していますという数値は分かるか。

【事務局】

資料5の公園に関するアンケート調査案をご覧ください。問6がその関連なのですが、頻度についてお伺いしております。

利用者数につきましては岩ヶ池公園、洲原公園の一部の施設で指定管理の中で把握できるかもしれませんが、その他の公園につきましては、具体的な人数というのは把握してない状況になります。

【委員長】

難しいですね。施設系なら施設の入場者数をカウントすれば、ある程度分かるが、公園をどれだけ利用しているかというのはなかなか難しいかもしれませんが。

【事務局】

ただ、今回、アンケート調査を実施するにあたって、資料5の、(2)の調査対象の、B)の所で記載していますが、公園の利用状況をワークショップに参加された方にも分かりやすいように、定点で公園の状況の写真を撮りまして、それを見て頂くと、公園の中の雰囲気、具体の人数ではないのですが、目で見て分かるような形で、お示しできたらいいかと思っております。

《議題(5)について》

説明(資料7:スケジュール)

【委員長】

コロナの状況によって変化はあるかもしれませんが、今、資料の7のスケジュールでは順調に

いってということで示されております。ご意見・ご質問はありますか。

【事務局】

先ほど委員長のほうから、策定委員会の委員の方々のご意見を伺うということになるのかとご意見を頂きましたが、ワークショップの第5回で委員傍聴と記載しています。第5回というのは第4回に構想案をある程度策定したものを、第5回でワークショップの参加者に発表してもらいます。その発表を策定委員の皆さまにも見ていただくことを考えております。

また、ワークショップの取り組み内容や結果については、策定委員の方々にニュースレターを送付しお知らせするとともに、ウェブサイトにも掲載して、広く皆さんにも分かるような形で実施していきたいと考えております。

【委員長】

ワークショップが一月間隔であるとする、少なくとも2週間以内では結果が出るということですね。まとめるのが大変だと思いますが、2週間か、つまり次のワークショップが始まる前には出ると、そういうイメージでよろしいですか。

【事務局】

そうです。

【委員】

ワークショップの一般の傍聴、オブザーバーは認めないのか。行ってもよいのか。

【事務局】

ワークショップの参加者として中学生の方とか、さまざまな分野の方に出て頂くのですが、本当に様々な分野の最前線で活躍されている方々、会議とかにあまり出たことない方もたくさんおみえになるかと思えます。そういった中で、傍聴に来た大人の人が並んでいたりすると少し緊張してしまうことが考えられます。生の意見をたくさんいただける環境をつくりたいと思っておりますので、ワークショップ自体は傍聴なしで実施し、その情報はウェブサイト等で発信していくという形を取りたいと考えております。

【委員】

公園の関係のワークショップはちょっと聞いてみたいなのがある。個人的にはいきたいが、今、言われたから、後で見ておいてということですね。

以 上